

マーケット動かす商品造成を！ インフラ整い中国全域への観光が可能に

JATAは3月22日、JATA本部内で「中国旅行復活緊急フォーラム」を開催しました。今回の緊急フォーラムでは、中国旅行新時代に向けて、最新の現地事情と観光素材、登壇者による商品開発の考えなどが紹介されました。

「中国の復活」が「海外旅行の復活」

JATA海外旅行推進委員会の委員長も務める菊間潤吾JATA副会長は、業界関係者ら約130人が集まったフォーラムの冒頭で、「JATAとして今年のメインターマは『海外旅行の復活』だが、そのためには『中国の復活』が最優先課題となる」と指摘し、「回復の兆しを待つて旅行会社商品企画に取りかかるのではなく、われわれがマーケットを動かしていかなければいけない」と強調。昨年5月に実施された3000人規模の「日中観光文化交流団」訪問で雰囲気改善されたのに続き、



モデレーターを務めた菊間潤吾 JATA 副会長

香港やマカオで日本人旅行者が2ケタの伸びを示すまでに回復していることなどに言及し、「訪中旅行市場におけるパッケージ旅行の利用者数を100万人台にまで戻さなければならぬ」という認識を示しました。

菊間副会長は、日本の訪中旅行市場にとっては「空白の3年間」とも言うべき2013年から2015年までの間に、中国経済が著しく発展し新幹線や高速道路などの環境整備も進んでおり、「かつてはSIT的な興味を持つ人しか行けなかった場所でも、普通の人が行っても十分に楽しめるようになった」と説明。「中国旅行新時代」を切り開く覚悟で、商品造成に励んでいたと語りかけています。

中国は3年間で劇的な変化

中国国家観光局駐日本代表処の羅玉泉首席代表は、2012年に



羅玉泉 中国国家観光局駐日本代表処 首席代表

351万8000人だった訪中日本人旅行者数が、2015年には249万8000人まで減少していることに言及し、「中国国内では、逆に、この3年間に劇的な変化が現れている」と語り、日本の旅行業界に対して、そうした変化への理解を求めました。

中国では、2012年に8000万人だった国外への旅行者数が2015年には1億2000万人まで増加しており、羅首席代表は、旅行者の増加について「旅行と観光が大きな産業として中国人に親しまれている証だ」と説明。そうした中で、日本から中国への旅行者数が減っている事実は、中国国内での旅行や観光の盛り上がりと乖離したものという印象が拭えないと指摘しています。

中国国内では現在、交通網や宿泊施設などのインフラ整備だけでなく、中国全土の3万カ所に清潔な水洗トイレを作る「トイレ革命」も進められており、中国国家観光局は「全域旅行」「全域観光」を全国で提唱しています。また、中国全国に広がる5つ星のホテルも、869軒を数えるまでになりました。

羅首席代表は、「都市や農村部、田舎にいたるまで、中国の国内旅行者だけでなく、外国人旅行者も視野に入れた受入体制作

中国旅行復活緊急フォーラム登壇者



江川 光太郎 / 中青旅日本(株)・営業部長

「トンネルを出たら全く違う世界が広がるというくらい中国は大きく変わっている」



常 永波 (ジョウ エイハ) / チャイナエンタープライズ(株)・代表取締役社長

「日中間路線で3年間に約130万席増えたがインとアウトのアンバランスを解消したい」



徳野 浩司 / 東武トップツアーズ(株)・海外旅行部長

「旅行者数を増やす方策として公務団体を中心に団体強化を図るという考え方も」



王 昕 (ワン シン) / 株式会社キャラバントラベル・代表取締役

「高齢化でかつての中心層が動かなくなっており、若い層を動かさねばならない」

(氏名50音順)

りが進められていることを指摘し、「交通が不便で、泊まれるところも汚くて少ないといった以前の中国に対する印象は、この3年間で大きく変わりました」と語り、「日本の旅行業界の皆さんには、そうした中国の変化を一般の旅行者の皆さんに伝えて欲しい」と訴えています。

さらに、羅首席代表は、政府が認定する5つ星評価の「国家5A登録」の観光資源が2014年現在で186カ所に及び、そのうち80カ所が2012年以降に登録されたものであることも強調。山東省の台児荘古城や寧夏銀川市の灵武水洞沟旅游区などの「国家5A登録」を紹介して、「大きく様変わりした中国国内の観光資源を確認することから、新たな商品企画に着手して欲しい」と呼びかけました。